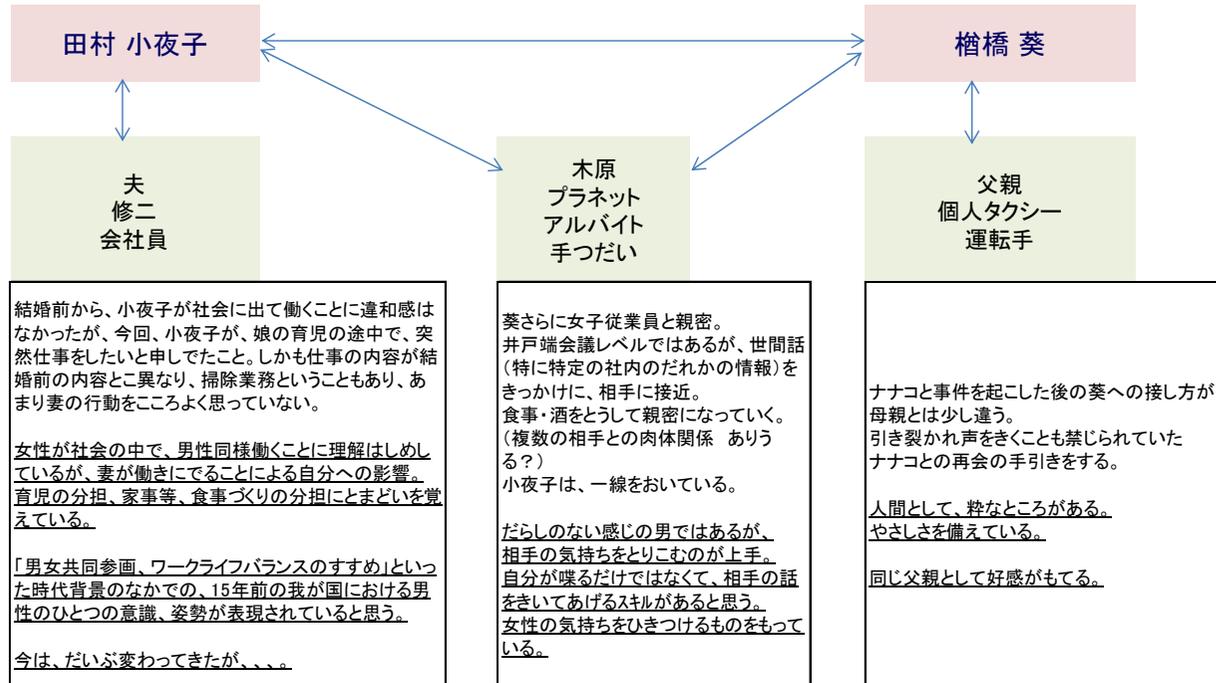


二人の主人公と登場する3人の男たちの姿に 自分を重ねりあわせて 感想



65年生きてきて、夫、父親、社会の一員を担ってきた自分の姿と重なる部分があり、男と女(妻、子、同僚、知人、友人等)との関わり方について、立ち止まって考えるよい機会となりました。

小夜子と葵は、二人の出会いを通して、時に意気投合し、時に亀裂も生じるが、最後にまた交わっていくこととなったことに拍手を送りたい。

人は、一步外へ足を踏み出していくことで、新たな人生が開けると思う。

これまで私は、こういうスタンスで歩んできたが、これからも人との交わりを恐れず前を向いていきたい。

人との出会いの結果を恐れていたなら、何も得られない。リスクなくしてリターンなし。

この読書会メンバーとの出会いにも感謝したい。